

神秘学ポエジー 風遊戯  
photopos  
103

【神秘学ポエジー～風遊戯 第206集】 photo ヴァージョン

photopos 2551-2575

《2021.9.1～2021.9.25》

神秘学遊戯団



生まれてくると  
すべては  
はじめて

けれど  
はじめては  
すぐに  
はじめてでは  
なくなってしまう

はじめての  
驚きは  
どこに  
消えてしまうのか

ほんとうは  
いまも  
すべては  
はじめてのはずなのに

どんなものも  
ありふれたもの  
になってしまうのは  
なぜだろう

はじめて  
出会えたときの  
驚きは

いまもまだ  
ここに  
たしかに  
あるはずなのに



※愛媛県松山市・重信川河口にて



争いが  
生まれるのは

わたしが  
わたしであり  
あなたが  
あなただから

争いを  
なくすには

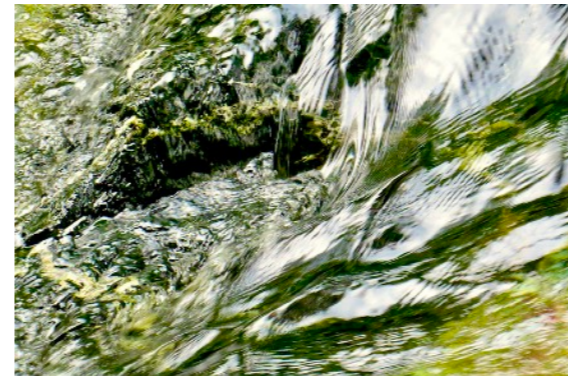
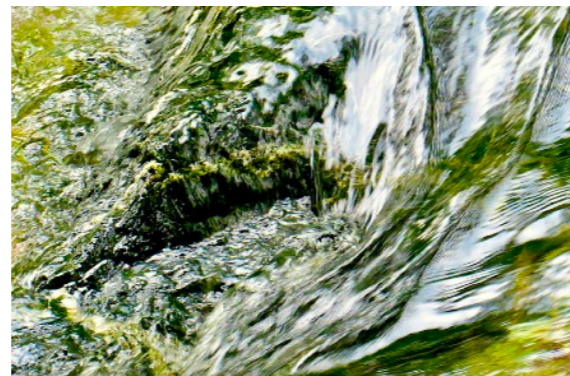
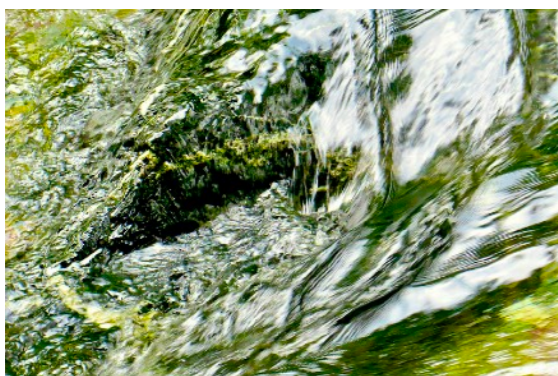
わたしは  
わたしのなかに  
あなたを  
あなたは  
あなたのなかに  
わたしを  
見なければならぬ

それでも  
わたしは  
わたし  
あなたは  
あなたで

その  
はてしない  
矛盾のなかで  
わたしは  
あなたを生き  
あなたは  
わたしを生きる

それを  
愛と呼び  
その矛盾をこそ  
生きようとするとき

わたしを  
そして  
あなたを  
知らず深みで  
抱いている掌がある





好き  
という  
言葉が  
なくなったら

好きは  
どこへ  
いけばいいのだろう

好きなひとは  
好きなひとのままで

きれい  
という  
言葉が  
なくなったら

きれいは  
どこへ  
いけばいいのだろう

きれいなものは  
きれいなもののままで

うた  
という  
言葉が  
なくなったら

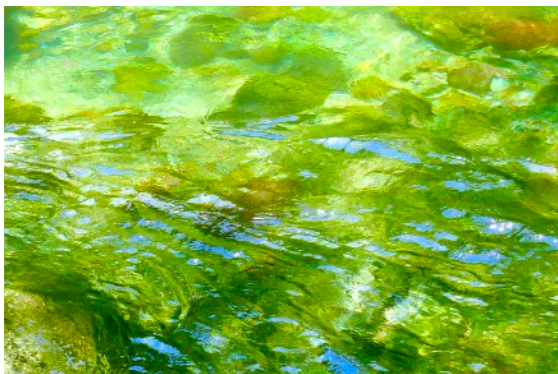
うたは  
どこへ  
いけばいいのだろう

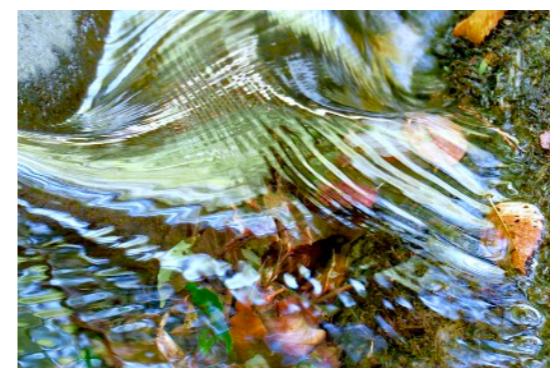
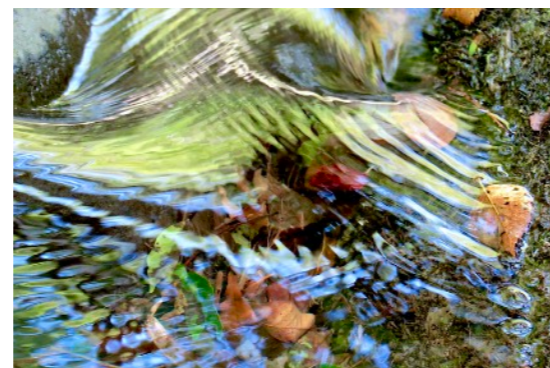
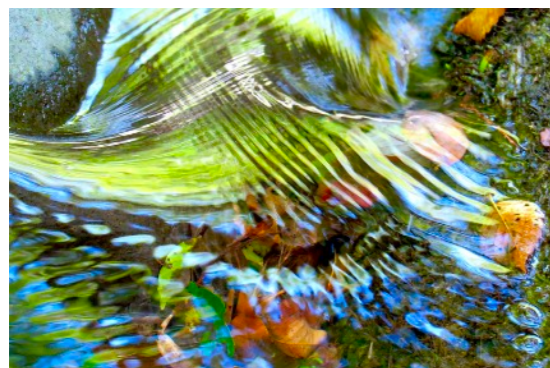
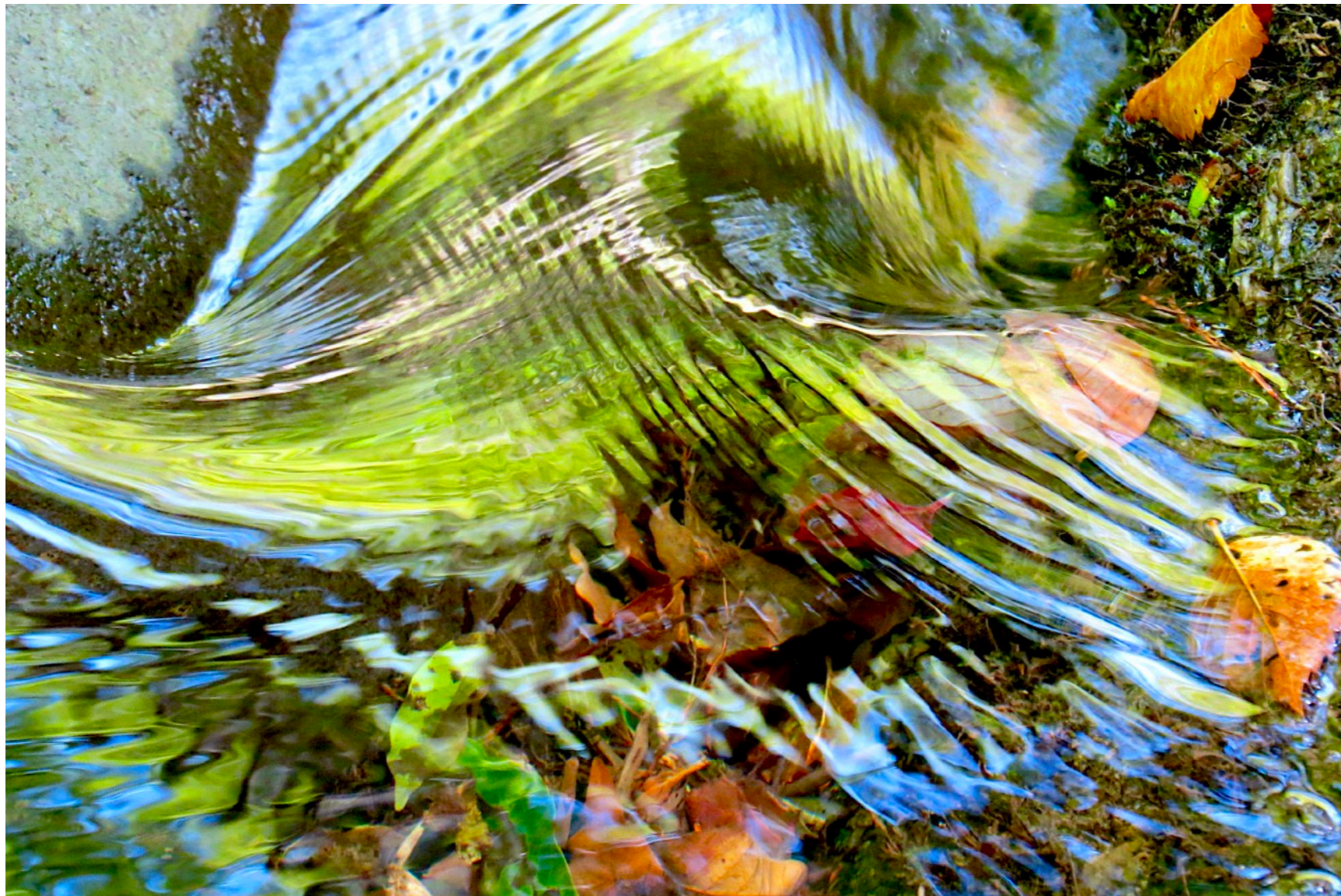
うたうこえは  
うたうこえのままで

遊び  
という  
言葉が  
なくなったら

遊びは  
どこへ  
いけばいいのだろう

遊ぶところは  
遊ぶところのままで





知られていることを  
覚えても  
知らないことは  
わからない

(知らないことから)  
(はじまるじぶんへ)

役に立つことばかり  
学んでも  
無駄でしか学べないことは  
わからない

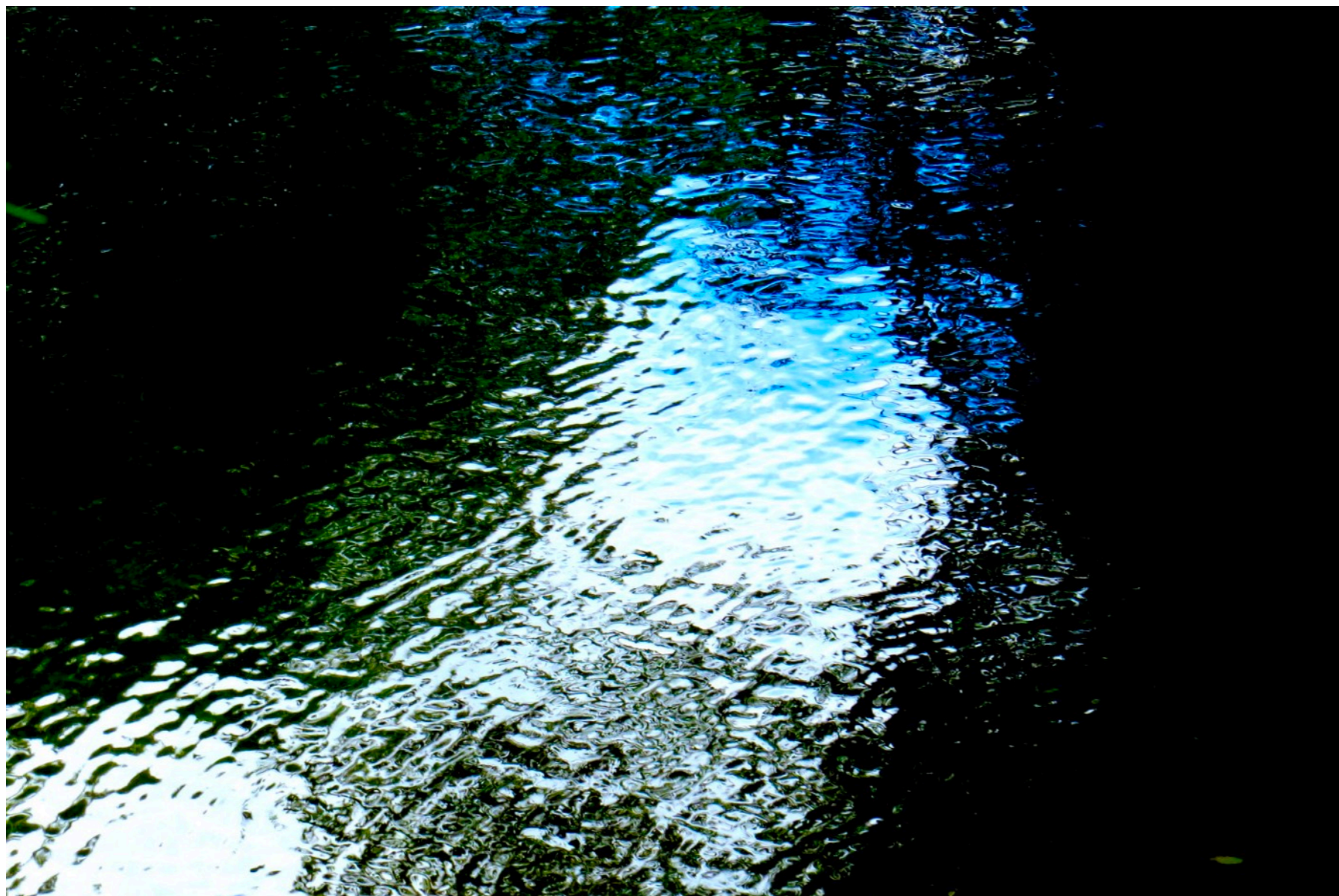
(無駄なことから)  
(はじまるじぶんへ)

賢く見えることばかりを  
教えてもらっても  
賢い世界のことしか  
わからない

(賢い世界の外で)  
(はじまるじぶんへ)

みんなといっしょに  
考えても  
みんなの考えることと違うことは  
わからない

(みんなの外で)  
(はじまるじぶんへ)



らしさを  
閉じないのがいい

男も女も  
どちらでもないものも

子供も大人も  
どちらでもないものも

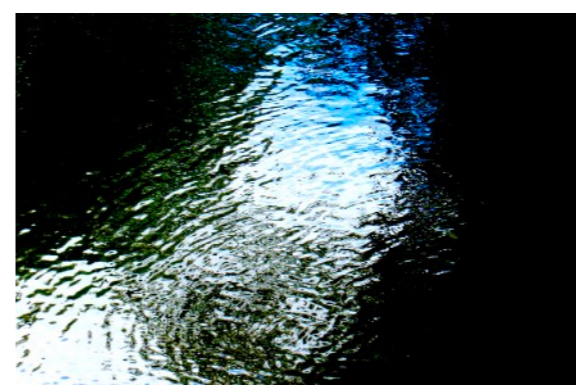
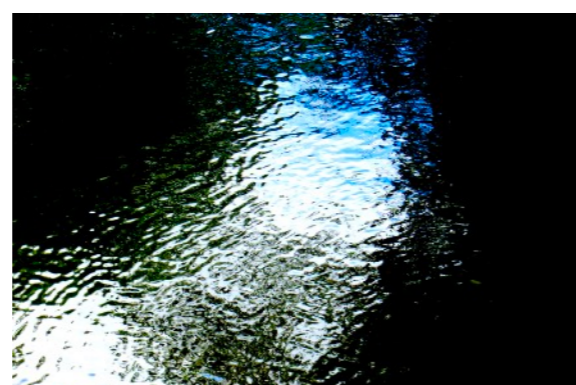
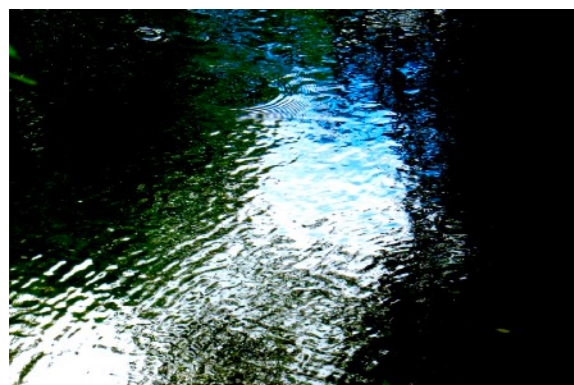
人も国も  
ひらかれてあるように

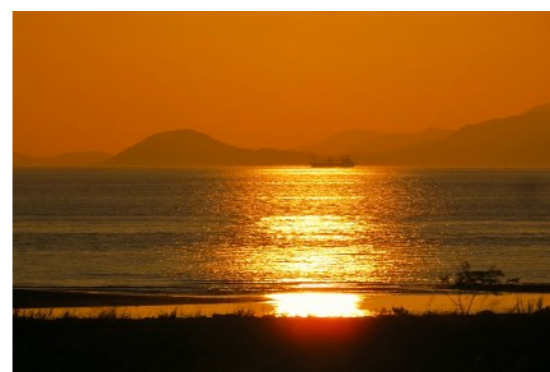
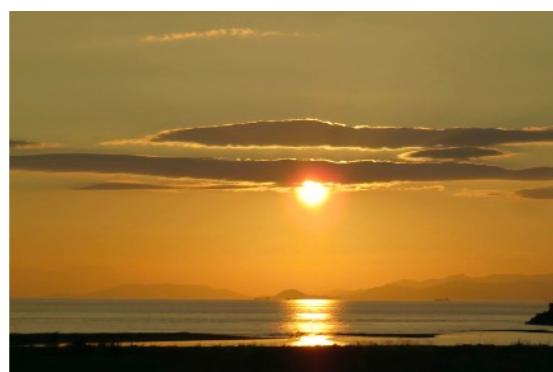
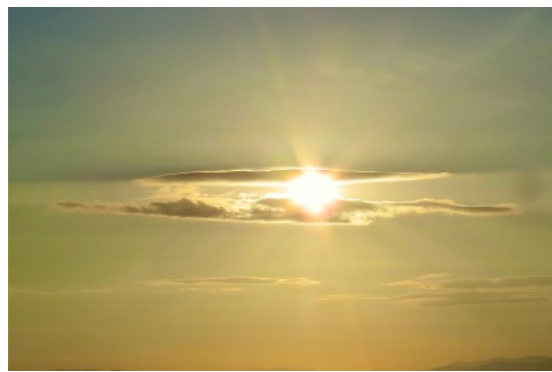
窓を  
開けられるのがいい

わたしの窓と  
あなたの窓と

考える窓と  
感じる窓と

光も闇も  
つながってられるように





※愛媛県松山市・重信川河口にて

眼がなければ  
見ることはできないけれど  
見ているのは  
眼なのだろうか

私がいなければ  
見ることはできないけれど  
見ているのは  
私なのだろうか

見ているのは  
私のなかの光なのかもしれない

脳がなければ  
考えることはできないけれど  
考えているのは  
脳なのだろうか

私がいなければ  
考えることはできないけれど  
考えているのは  
私なのだろうか

考えているのは  
私のなかの風かもしれない

手がなければ  
作ることはできないけれど  
作っているのは  
手なのだろうか

私がいなければ  
作ることはできないけれど  
作っているのは  
私なのだろうか

作っているのは  
わたしのなかの火かもしれない

からだがなければ  
生きることはできないけれど  
生きているのは  
からだなのだろうか

私がいなければ  
生きることはできないけれど  
生きているのは  
私なのだろうか

生きているのは  
私のなかの水かもしれない



いつまでも  
繰り返し  
寄せては返す  
波のように

わたしは思い  
その思いは  
また  
わたしへと  
寄せ返し

わたしは祈り  
その祈りは  
また  
わたしへと  
寄せ返し

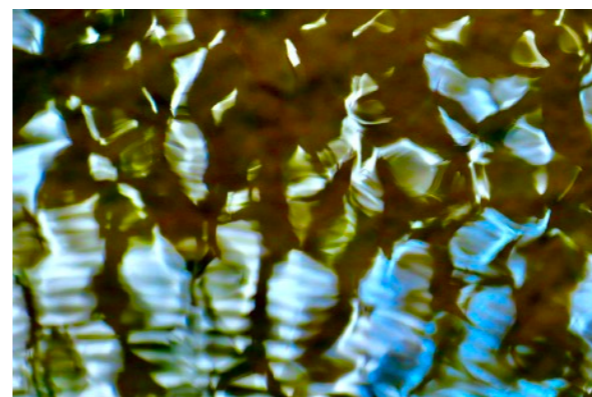
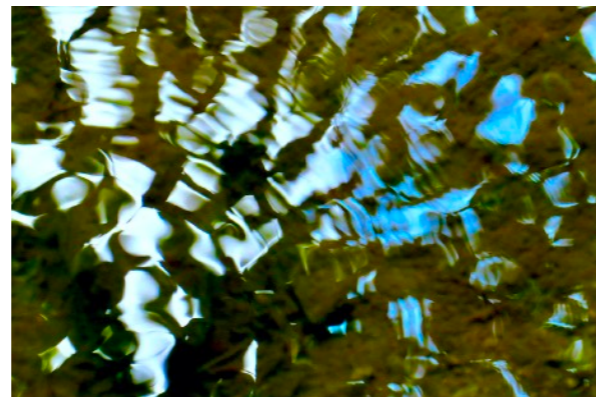
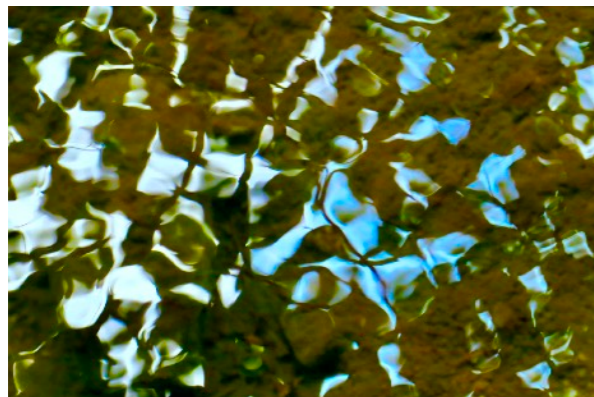
わたしは歌い  
その歌は  
また  
わたしへと  
寄せ返し

寄せては返す  
そのあいだに  
繰り返し  
繰り返し

わたしは  
与え  
与えられながら  
わたしを変えてゆき







はじめはひとつだった宇宙に  
わたしとあなたという矛盾が生まれ  
そして無数のわたしが  
みずからをわたしと呼びはじめるように

わたしたちは  
みずからを超えるために  
矛盾を生きねばならない

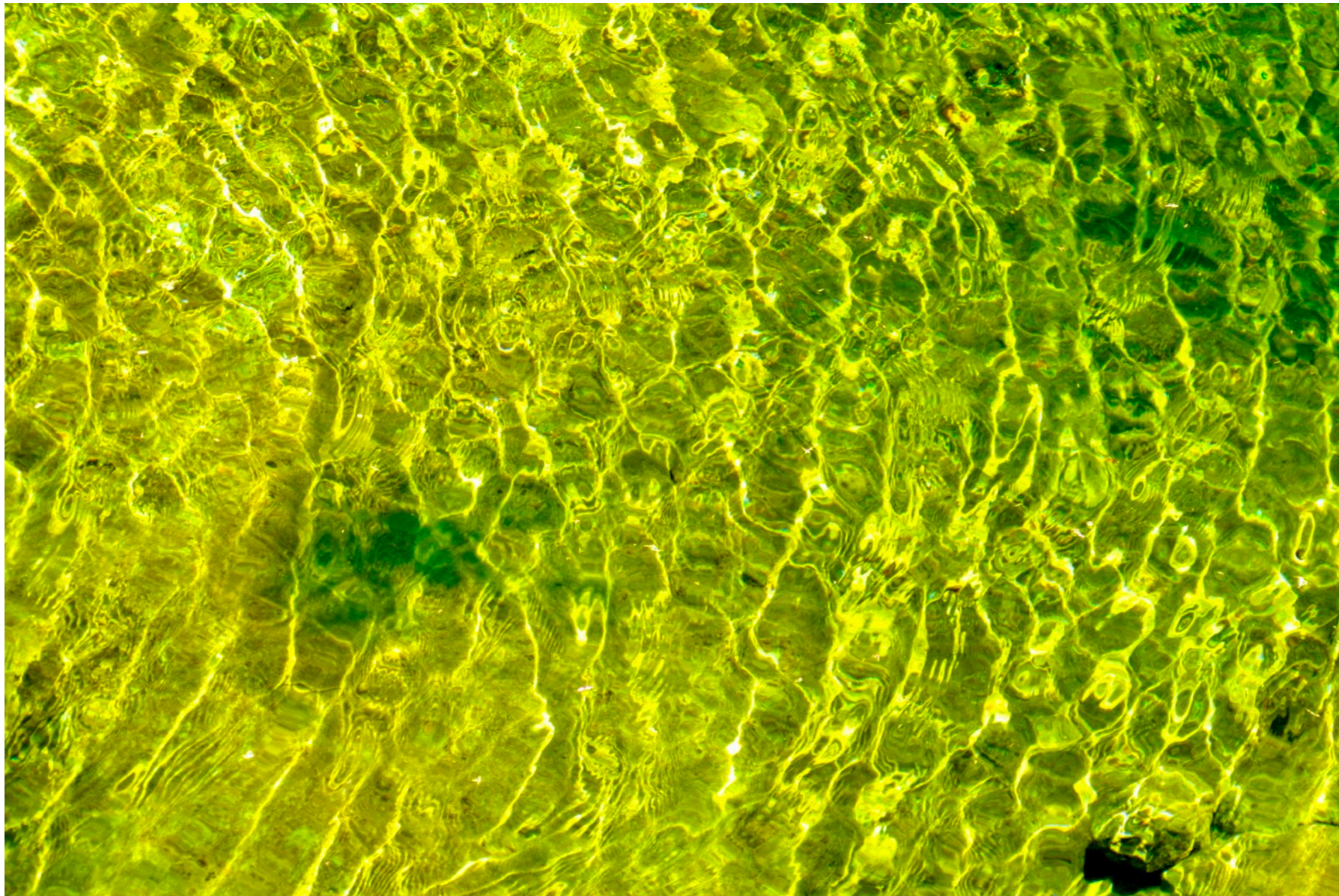
ひとつの種が  
そこから花を果実を生み  
またあらたな種を生み出す  
そんな変容を生きねばならないように

知らないことを知ること  
知ることが  
超えられてゆかねばならないように

ひとつの論理が  
その論理の外を見出し  
あらたに別の論理を生み出し  
矛盾を超えてゆかねばならないように

たとえどんな叡智が過去にあったとしても  
過去はそのまま繰り返されてはならないから

叡智はみずからの内に  
愛という矛盾を生みだし  
それを生きることを選んだのだ



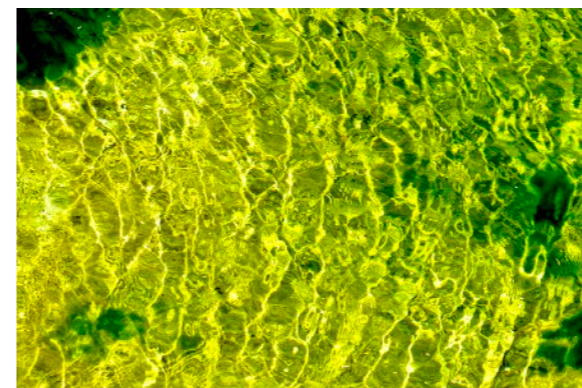
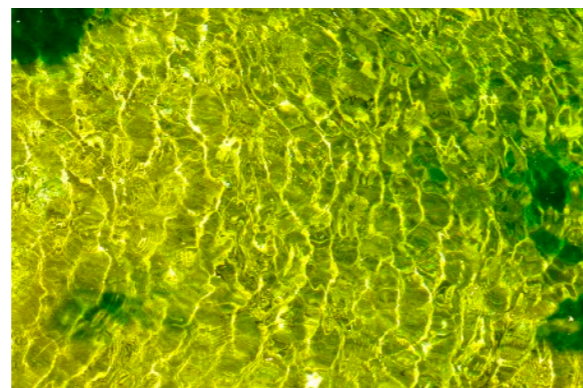
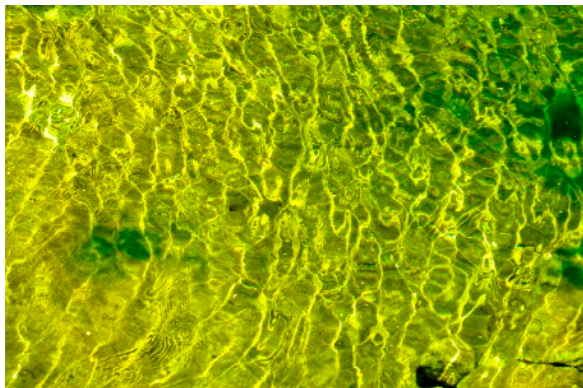
量子のごとく  
言葉は働くが  
その実体は  
わからぬままだ

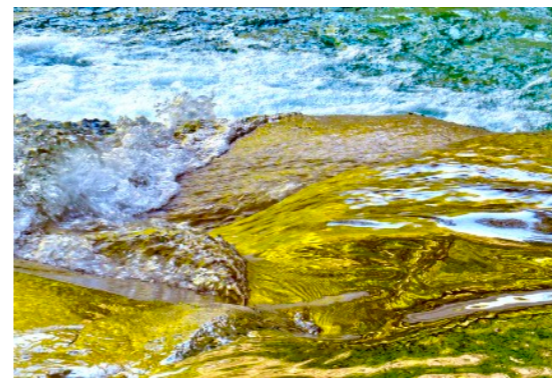
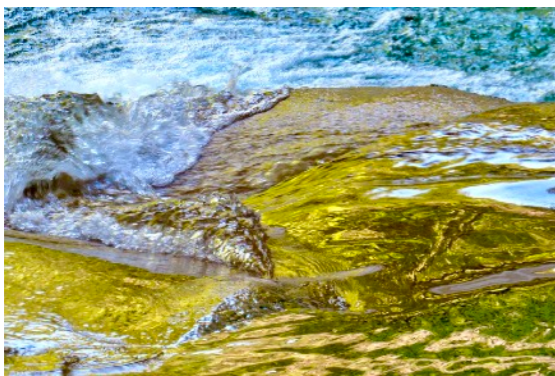
人は「言葉遣い」だ  
にもかかわらず  
言葉に操られ  
自由をなくしている

言葉を切り刻んでも  
そこには何も残らない  
ただ言葉を重ねても  
重ねるほどに空虚になるだけ

世界は言葉でできている  
ならば  
みずから言葉となって  
生きるしかないではないか

言葉の前に世界はなく  
言葉の後に世界はできる  
ならば  
言葉を歌うしかないではないか





※愛媛県久万高原町・面河溪にて

踏み迷うのは  
良いことだ

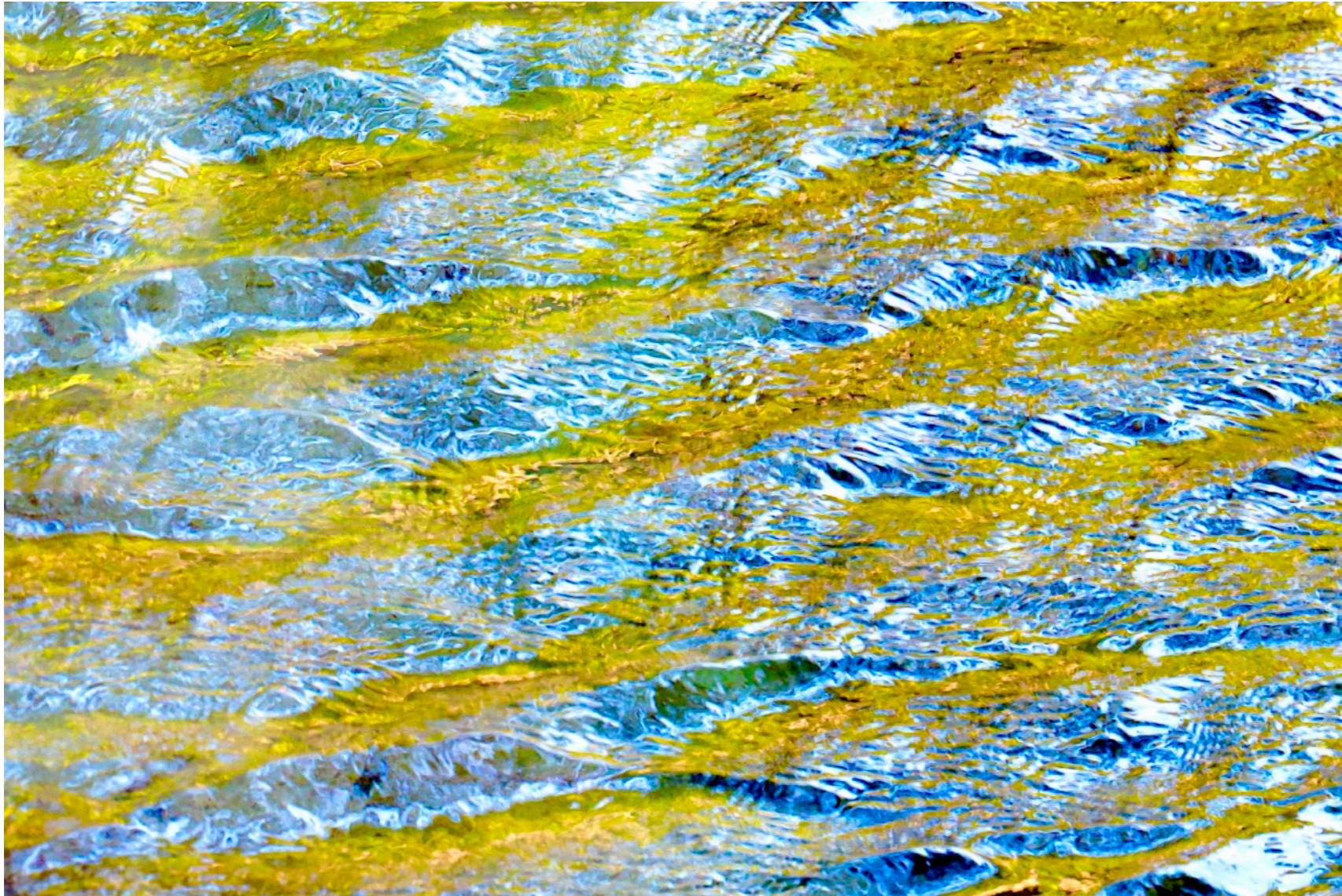
少なくとも  
つくられた道を  
フローチャートの如く  
進んでゆくよりも  
よほど魂は養われる

救われないのは  
良いことだ

少なくとも  
決められた儀式と  
決められた祈りで  
救われようとするよりも  
よほど魂は天を仰いで止まない

言葉にならないのは  
良いことだ

少なくとも  
頑なさで塗り固められた  
意味だらけの言葉を使い  
口角泡を飛ばすよりも  
よほど魂には美しい



忘れたくないのに  
忘れてしまう

わたしは  
記憶で  
できている

忘れてしまうことは  
もうわたしではなくなっている  
のだろうか

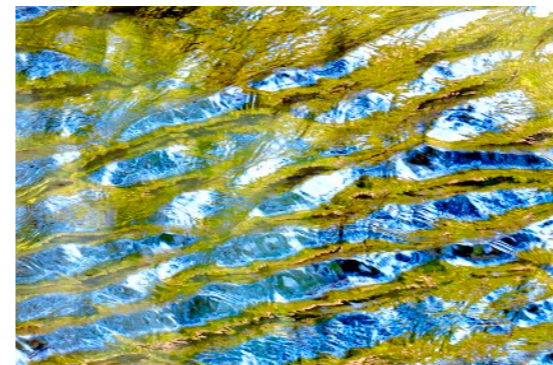
いつか  
わたしは  
離れたわたしに  
出会える  
だろうか

忘れないのに  
忘れられない

わたしは  
記憶で  
つくられる

忘れられないことは  
わたしからはなれない  
のだろうか

いつか  
忘れないわたしと  
ともに  
語り合える  
だろうか



☆photopos-2562

2021.9.12



世界は夢でもいいけれど  
夢には夢の  
コスモスとカオスがある

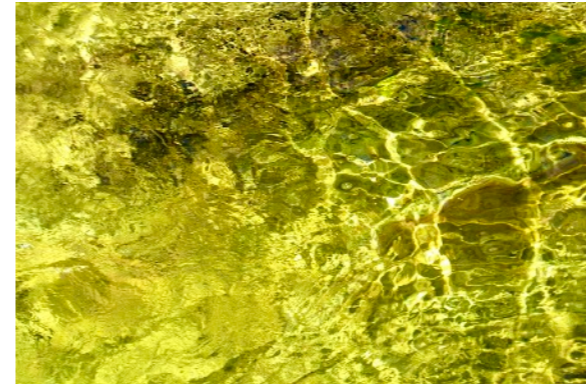
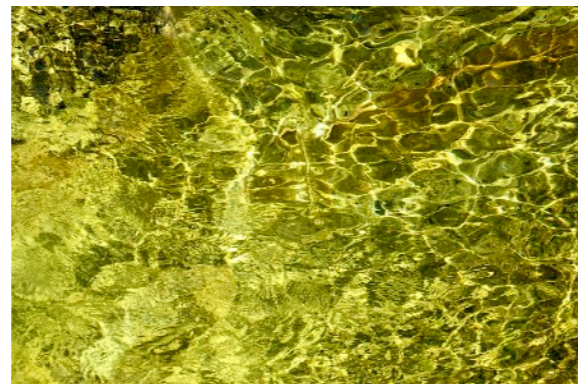
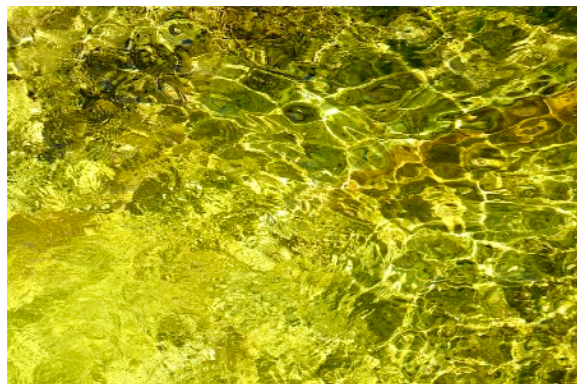
(夢の深みで)  
(あなたの声をききたい)

世界は無意味でもいいけれど  
無意味には無意味の  
意味を求める遊びがある

(無意味の果てに)  
(あなたへの歌を歌えれば)

世界は偶然でもいいけれど  
偶然には偶然の  
不意に訪れる不思議がある

(偶然の然らしめる)  
(あなたとの出会いへ)



※愛媛県久万高原町・面河溪にて



それを  
それといったとたん  
それはもう  
わたしではなくなっている

いまのいままで  
それとわたしは  
ふたつでひとつ  
ひとつでふたつ  
だったはずなのに

それはそれでしかなく  
わたしはわたしでしかない

ふたつでひとつ  
ひとつでふたつは  
いったいどこに  
いったしまったのだろう

あなたを  
あなたといったとたん  
あなたはもう  
わたしではなくなっている

いまのいままで  
あなたとわたしは  
ふたりでひとり  
ひとりでふたり  
だったはずなのに

あなたはあなたでしかなく  
わたしはわたしでしかない

ふたりでひとり  
ひとりでふたりは  
いったいどこに  
いったしまったのだろう



※愛媛県松山市・重信川河口にて

私は見る  
すると  
世界は立ち現れる

そのとき  
私はいなくなる

そして  
見るという秘密のなかで  
私という世界が見ている

私は知る  
すると  
世界は知られる

そのとき  
私はいなくなる

そして  
知るとい秘密のなかで  
私という世界が知られてゆく

私は哀しむ  
すると  
世界は哀しむ

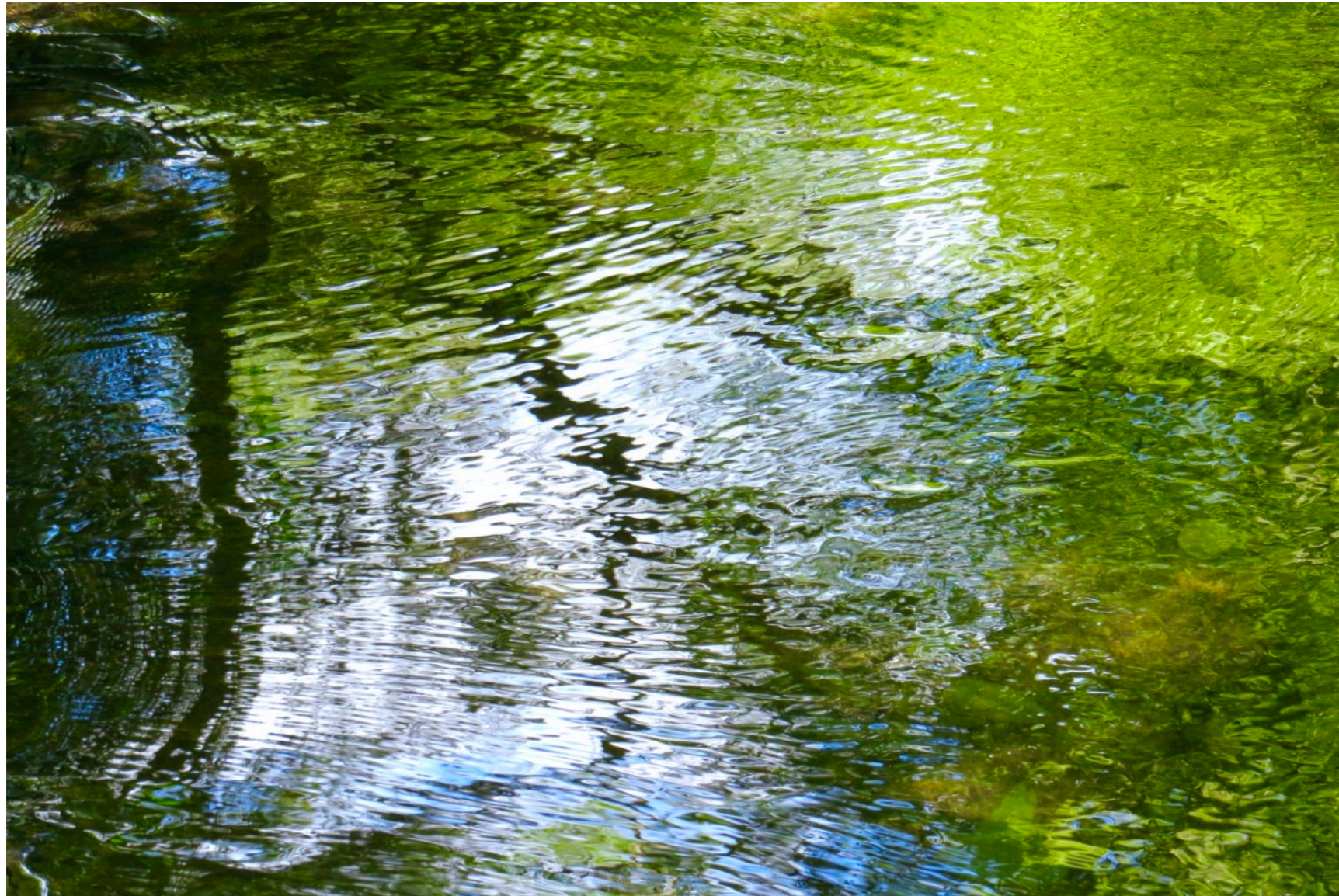
そのとき  
私はいなくなる

そして  
哀しみという秘密のなかで  
私という世界が哀しんでいる

私は歌う  
すると  
世界は歌う

そのとき  
私はいなくなる

そして  
歌という秘密のなかで  
私という世界が歌っている



見ることが世界になるなら  
どんなことばで表せるだろう

わたしの見る世界  
あなたの見る世界  
その違いを超えて

聞くことが世界になるなら  
どんなことばで表せるだろう

わたしの聞く世界  
あなたの聞く世界  
その違いを超えて

嗅ぐことが世界になるなら  
どんなことばで表せるだろう

わたしの嗅ぐ世界  
あなたの嗅ぐ世界  
その違いを超えて

味わうことが世界になるなら  
どんなことばで表せるだろう

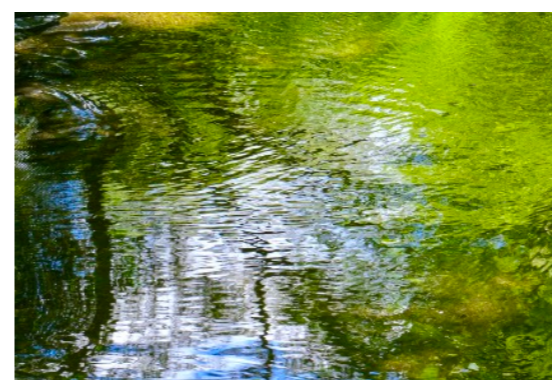
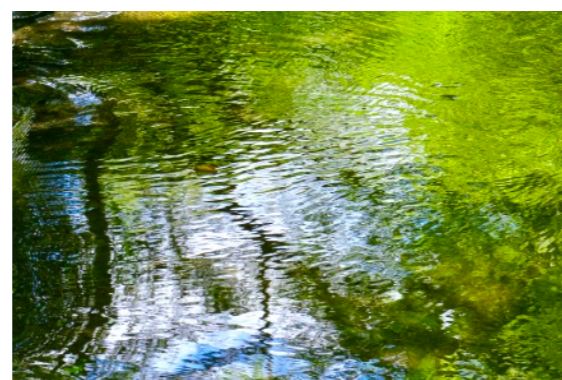
わたしの味わう世界  
あなたの味わう世界  
その違いを超えて

触れることが世界になるばら  
どんなことばで表せるだろう

わたしの触れる世界  
あなたの触れる世界  
その違いを超えて

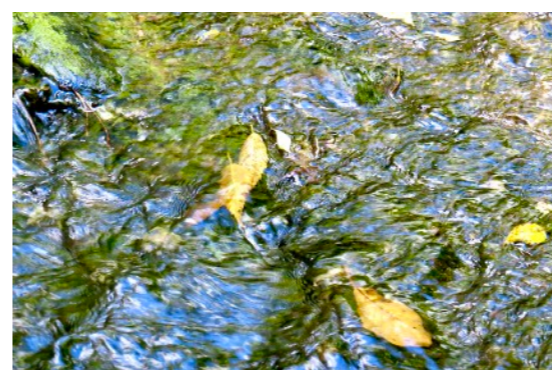
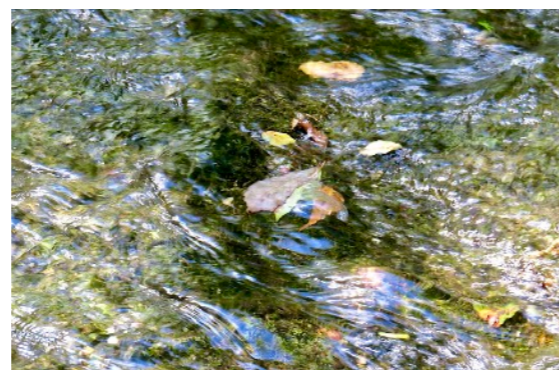
思うことが世界になるなら  
どんなことばで表せるだろう

わたしの思う世界  
あなたの思う世界  
その違いを超えて



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて





\*愛媛県久万高原町・古岩屋にて

見えているのに  
見えていない世界が  
たくさんある

そのことに気づいたとき  
世界は多次元的に広がり始める

ひとはひとつの世界に  
閉じ込められてはいない  
閉じ込めているのはじぶんなのだ

閉じられてしまっていた扉を  
ひとつひとつ開けていけば  
世界はひとつひとつ開示されていく

見えていなくても  
無限にひろがっている世界もある

言葉のなかにも  
かぎりないポエジーは広がっている  
まして心の世界は  
自由になれたぶんだけ  
どこまでもどこまでも広げていける

そしてそれはやがて  
ひとりという自由によって  
はじめて出会える  
他者へとつながってゆく

そのことに気づいたとき  
世界という秘密の扉は  
しずかに開かれてゆく



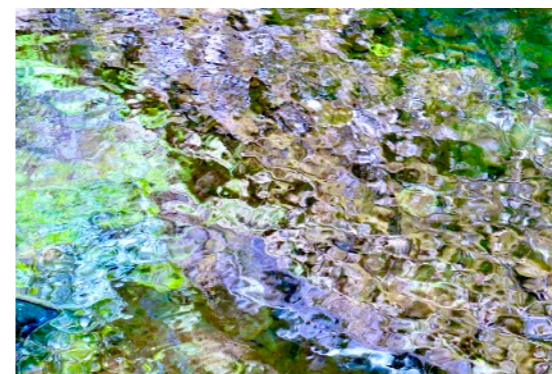
花の散ることは  
花を去ることではない  
あらたな姿へと  
変容してゆくことだ

ひとつのかたちをを  
守ろうとすることは  
ときに変容への道を  
閉ざしてしまうことになるから

変容するために  
発酵し熟成し  
静かに熱されながら  
再生してゆかねばならない

変わってゆくことは  
失うことではない  
あらたなものへと  
開かれることなのだ

死もまた  
滅することではなく  
あらたな姿へと  
変容してゆくことであるように



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて



ひとは  
まっさらで  
生まれてくる

と息を吐きたいけれど  
そうでもないらしい

でも  
まっさら  
じゃなくても  
いいじゃないか

と思えば  
それはそれだ

初期条件は  
初期条件として  
そこから  
オリジナルははじめる

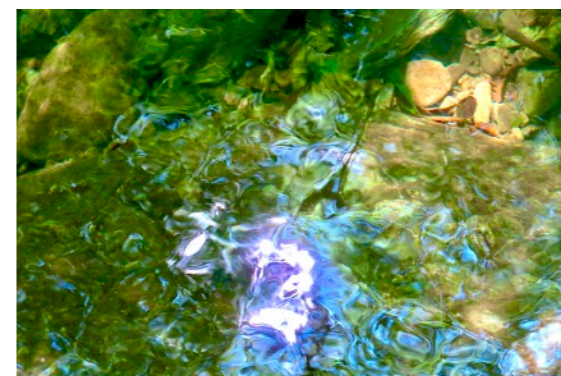
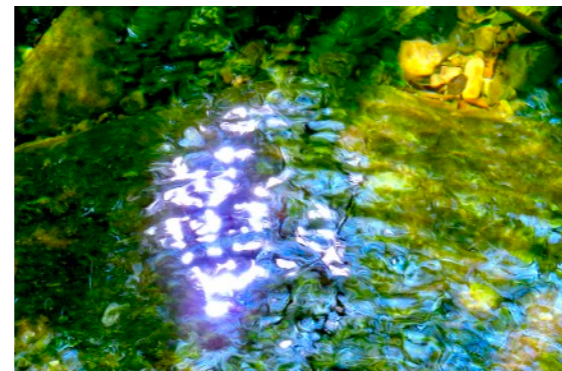
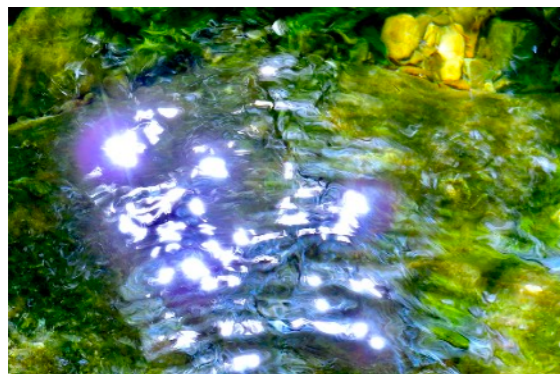
初期条件にしても  
オリジナルだったはずだが  
そんなことは気にせず  
そこからはじめる

あたらしい畑を耕して  
じぶんで初期条件を  
つくりなおせばいい

生きることは  
そんなに楽じゃないけれど  
永遠もたぶん  
そんなに楽なわけじゃない

ならば  
遊びをせんとや  
生まれけん

まっさらよりも  
ずっとおもしろそうだ



※愛媛県久万高原町・古岩屋にて



それ  
を見ると  
それではないもの  
が見えなくなる  
から

見ること  
と  
見ないこと  
のあいだ  
で  
ゆれていよう

見えるもの  
が  
見えてくるように

そのこと  
を考えると  
そのことではないこと  
が考えられなくなる  
から

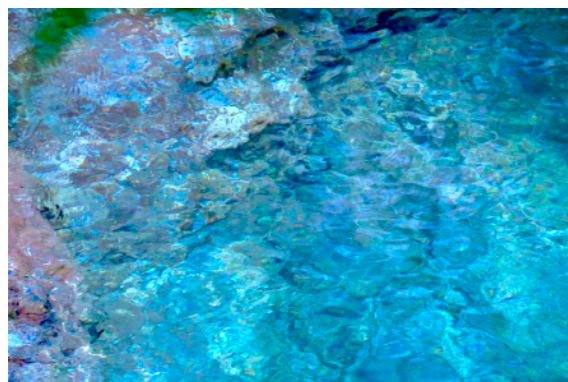
考えること  
と  
考えないこと  
のあいだ  
で  
ゆれていよう

考え  
が  
おとずれるように

私  
であると  
私ではないことが  
わからなくなる  
から

私であること  
と  
私でないこと  
のあいだ  
で  
ゆれていよう

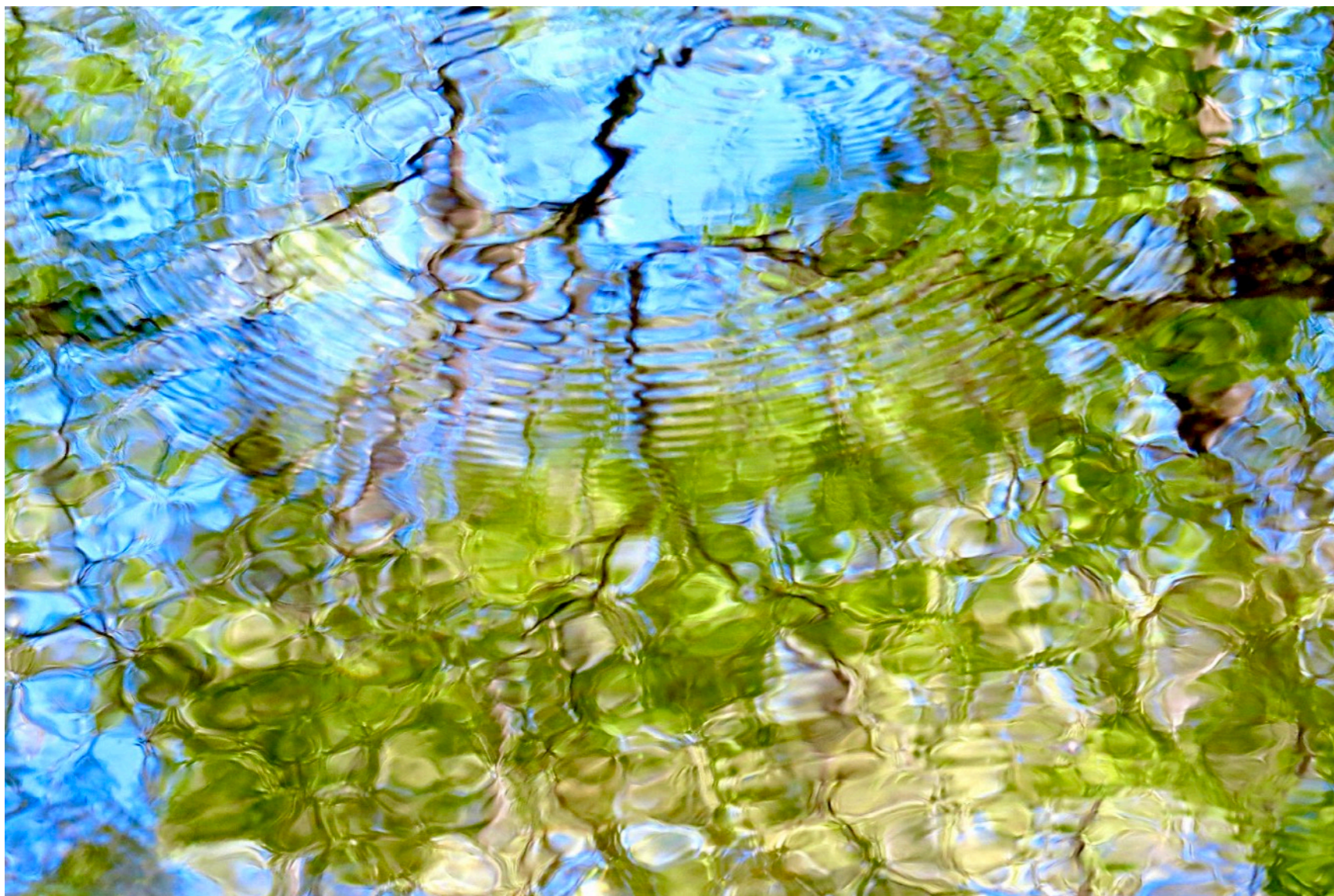
私  
が  
ひらかれるように



※愛媛県内子町・小田深山溪谷にて

☆photopos-2570

2021.9.20



水は  
水のかたちを  
うつし

風は  
風のかたちを  
うつすように

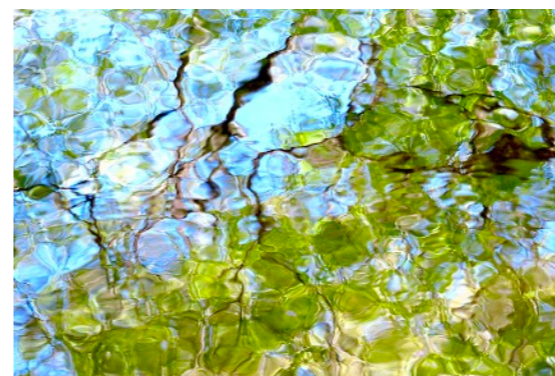
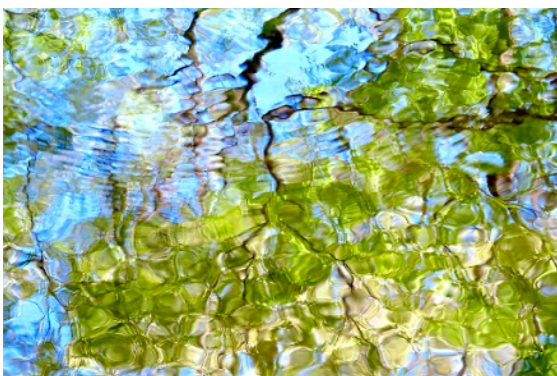
からだは  
からだのかたちを  
うつし

こころは  
こころのかたちを  
うつし

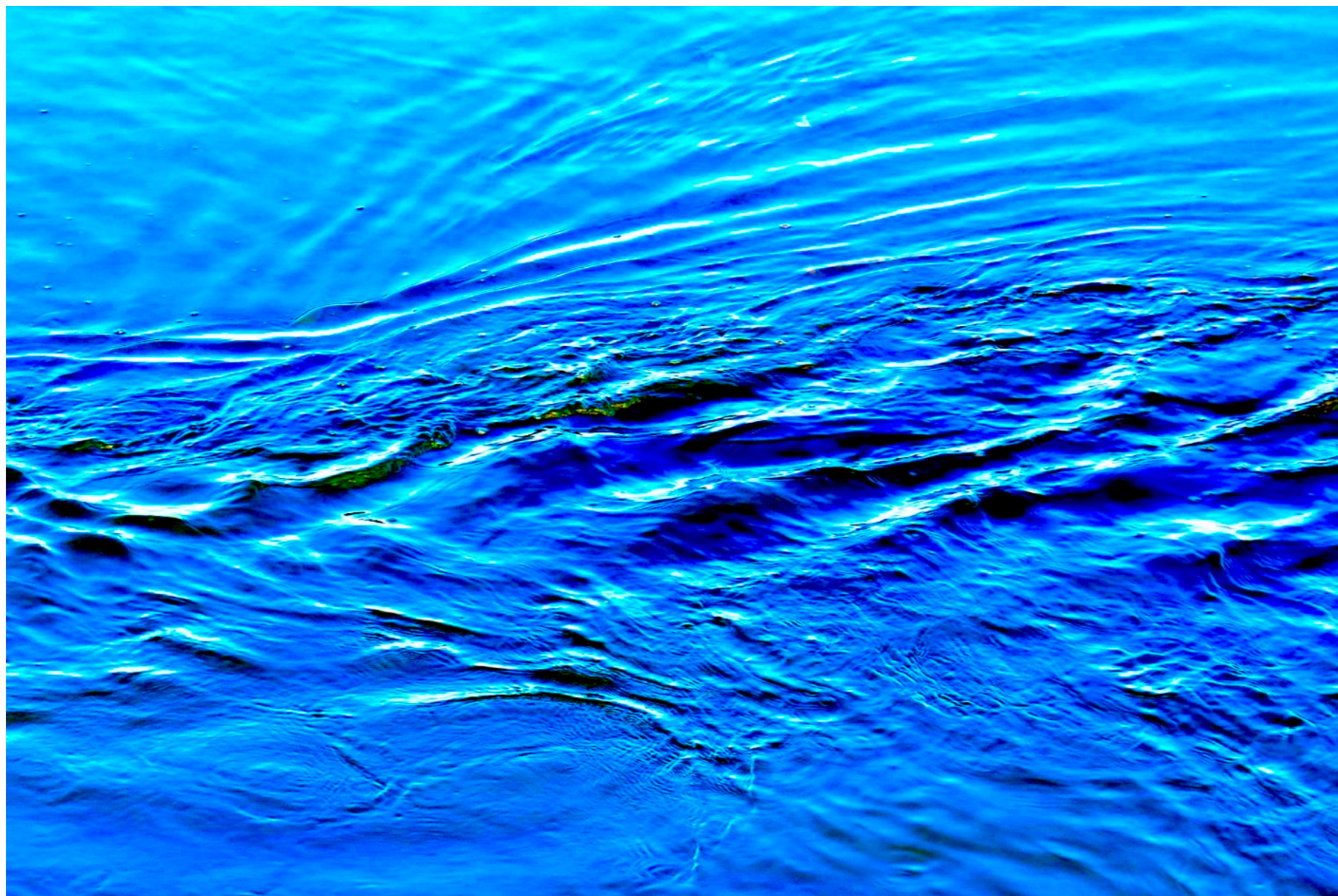
やがて

わたしは  
世界の源から  
わたしというかたちを  
うつしてゆく

その  
ふしぎなめぐりを  
夢見ている  
永遠のかたちよ



※愛媛県久万高原町・面河溪にて



夢のまにまに  
不意に  
時の面（おもて）は  
振れ捻れ歪み撓み

その襞にさまざまに  
不可思議な模様を刻みながら  
流れ淀み転じ分かれ

また不意に  
時の潮目の  
訪れ変わるとき

水や風や  
岩や花や  
鳥や虫や  
それらの時空の流れと

激しく交錯し呼応し混交しながら  
思いもかけぬ異界へと  
私を連れ去ってゆくのだ



☆photopos-2572

2021.9.22



深い霧に  
覆われた  
世界のなかで  
彷徨い  
道をさがす  
我らのために  
あらたな  
アリアドネの糸を

澱んだ空気に  
縛られた  
世間のなかで  
目覚め  
自由をさがす  
我らのために  
とらわれた魂を  
解き放つ呼吸を

短い答えだけを  
求める  
社会のなかで  
不断に  
問いつづける  
我らのために  
智慧を導く  
変幻自在の羅針盤を



※愛媛県久万高原町・四国カルストにて

☆photopos-2573

2021.9.23



気むずかしい  
のではない  
問いかけているのだ

拗ねている  
のではない  
嫌なのだ

意固地  
なのではない  
納得できないのだ

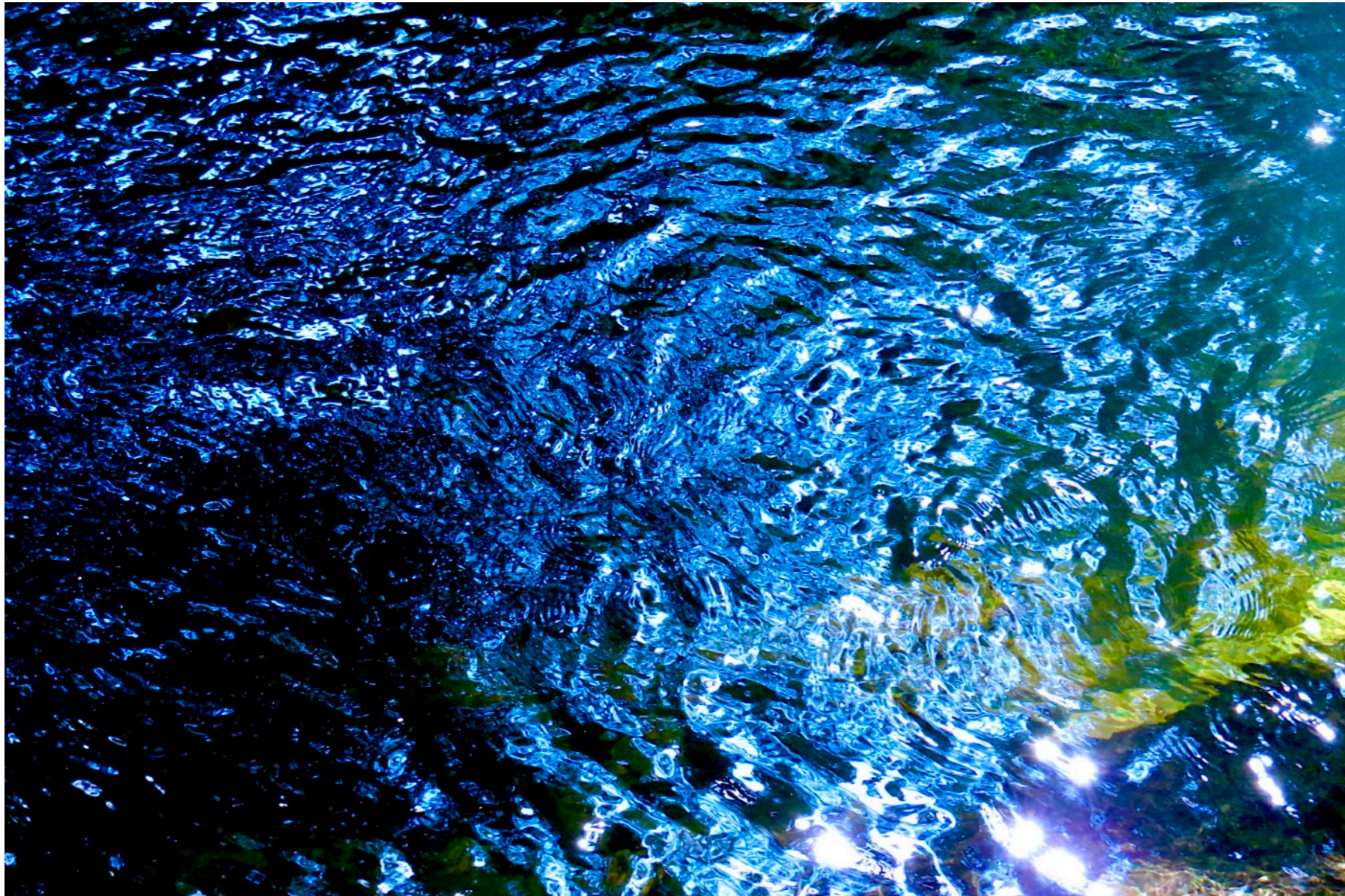
反抗的  
なのではない  
従いたくないのだ

それが  
ほんとうに必要なのか  
それを問いかけているのだ



※愛媛県久万高原町・四国カルストにて





内へ超えれば  
外へつながり  
外へ超えれば  
内へつながる

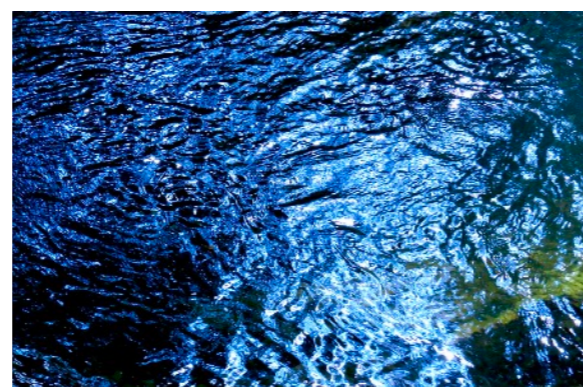
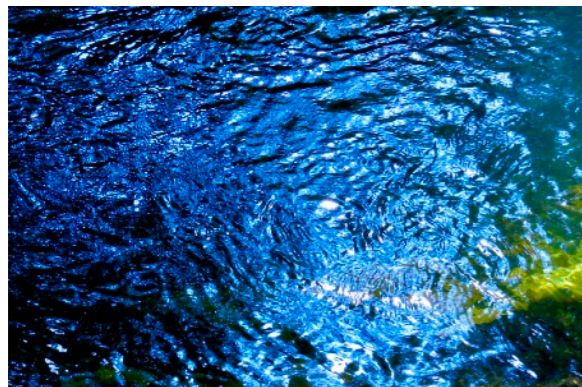
魂がたしかに  
むすばれますように

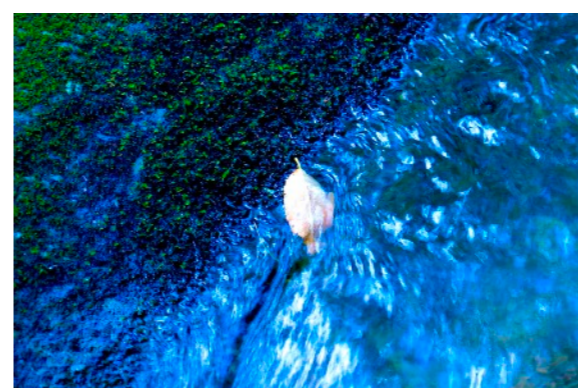
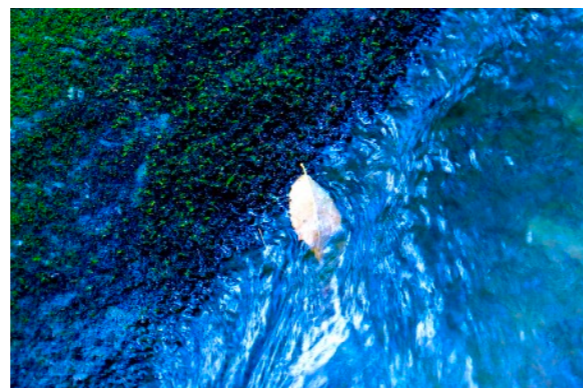
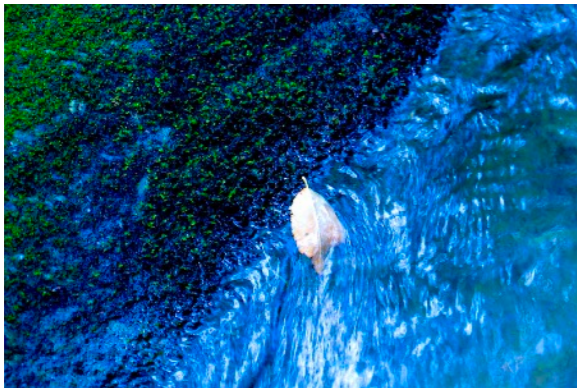
東へ向かえば  
西へつながり  
西へ向かえば  
東へつながる

道がたしかに  
むすばれますように

こころを深めれば  
からだへつながり  
からだを深めれば  
こころへつながる

わたしがたしかに  
むすばれますように





※愛媛県久万高原町・古岩屋にて

ひとつ  
ひとつ  
言の葉を  
去り

ひとつ  
ひとつ  
意味の鬨を  
去り

ひとつ  
ひとつ  
物の界を  
去り

ひとつ  
ひとつ  
心の声を  
去り

ひとつ  
ひとつ  
時の門を  
去り

ひとつ  
ひとつ  
私の境を  
去り

やがて  
無の場所で  
無の声を聴き

ひとつ  
ひとつ  
言の葉は  
甦り…